



雪害対策

大雪の備えと対応

気象情報を入手

- 大雪に関する気象情報は、数日前から発表されます。最新の情報を確認し、事前の対策をしましょう。
- 交通障害が予想される場合は、不要不急の外出を控えましょう。



除雪・防寒グッズなどの確認

- 除雪用具(スコップ、融雪剤や解氷スプレーなど)や防寒グッズ・装備品(使い捨てカイロ、長靴など)を確認しておきましょう。
- 直前に購入しようとすると手に入らないこともあるので注意しましょう。



やむを得ず外出する場合の注意点

徒歩での外出

- 滑りにくい靴を履いて、小さな歩幅で歩きましょう。
- 手袋を着用し、両手を使うようにしておきましょう。
- 踏み固められた雪は、滑りやすいので注意してください。



自動車での外出

- 冬用タイヤやチェーンを装着しましょう。
- 普段より減速して走行し、車間距離をとり、急ハンドル、急ブレーキなどは避けましょう。
- カーブはゆっくり曲がり、急な坂道など通行が難しいと思われる場所も避けましょう。
- 路面凍結によるスリップや視界不良による事故に注意しましょう。



車で立ち往生してしまった場合

- マフラーが雪で埋まってしまうと、排気ガスが車内に充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
 - エンジンをかける場合は、マフラーの排気口が雪で覆われないよう、除雪を行いましょう。
 - 長時間、車内に滞在する場合はエコノミークラス症候群に注意しましょう。
- ※定期的に足や手を動かしたり、水分を多めに摂取するなどして対策しましょう。



雪かき・雪下ろしをする際の注意

- ヘルメットや滑りにくい靴を着用し、二人以上で行いましょう。
- 晴れて気温が高くなったときは、雪が解けて滑りやすくなるので注意しましょう。
- 高い場所の雪下ろしは、命綱などを付け転落しないよう、注意しましょう。



火災対策

初期消火の3原則!

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すぐに119番通報を。初期消火で火を消せなかったら、すみやかに避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出ないときは、大きな音を出すなどして、異変を知らせましょう。
- 小さな火でも119番に通報しましょう。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼みましょう。

2 早く消火する

- 一般的に出火から3分以内が消火できる限度です。
- 水や消火器がない場合は、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用しましょう。

火元別初期消火のコツ

①油なべ

消火器もしくは、濡らしたタオルを固く絞って鍋を覆いましょう。(窒息消火)

②電気製品

いきなり水をかけると感電の危険があります。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火をしましょう。

③衣類(水がないとき)

着衣に火がついたら転げまわって消しましょう。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶりましょう。

④石油ストーブ

真上から一気に消火器もしくは、濡らした毛布などをかけて消火しましょう(斜めにかけると石油が飛び散って危険です)。石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火をしましょう。

⑤カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はありません。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火をしましょう。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合には、すみやかに避難しましょう
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断ちます。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



使用時の注意

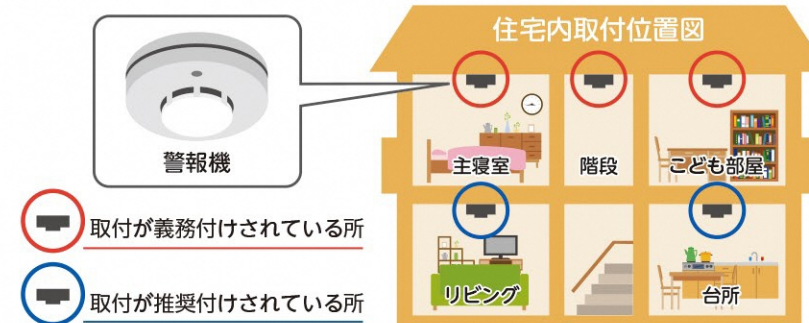
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く、熱や煙を避けるように構えましょう。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振りましょう。
- 屋外の場合は、風上から消しましょう。火災には正面から立ち向かわないようにしましょう。



自宅の火災予防

住宅用火災警報器の設置義務化

火災予防条例により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。



注意：住宅用火災警報器は電池式のもが主流です。電池の寿命は5年から10年とされていますので、早めの交換をお願いします。

住宅用火災警報器の設置場所

寝室

すべての寝室への設置が必要です。(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)

階段

寝室のある階の階段の天井などへの設置が必要です。

感震ブレーカーの設置

地震火災の過半数は「電気」が原因です。感震ブレーカーは、設定値以上の地震を感知すると、自動的に電気を遮断する装置です。「分電盤タイプ」や「コンセントタイプ」、「簡易タイプ」などがあるので、自宅の事情に合ったものを取り付けましょう。